

# 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立美原北小学校  
校長 北林 康男

## 中学校区におけるめざすこども像

学びを楽しみ、仲間とのふれあいを楽しみ、体を動かすことを楽しむ美原っ子 ～楽しく3つの調和をとれた子どもの育成をめざす～

令和8年度 重点目標 「総合的な学力」の育成 豊かな心と健やかな体の育成 学校力・教師力の向上 つながる教育の推進

### 「確かな学び」の現状

・基礎学力の定着に時間がかかる児童が多い。話し合い活動では、自分の考えを相手に伝えようとする姿が見られ、それに対してしっかりと話を聞こうとする姿が身についてきた。意欲的に「対話」に取り組もうとする一方で、自分や人の意見をもっと詳しく伝え合うということには課題が見られる。基礎的な受け答えや他者の意見から違う意見の着想を得たり、他者の発言に対して自分の考えを伝えたりすることができる児童を増やすための重点的な取り組みを行っていく。

### 「豊かな心・健やかな体」の現状

・学年を問わず人とつながる様子や、友だちに対して優しく接する姿が見られる。一方で、ルールや規律に対する認識が低く、北っ子の約束を守ろうとする意識が低い児童が一定数いる。改めて朝会や学級指導などを通して、北っ子の約束をまずは教職員が意識し、児童に伝えていき、学校として守っていくことが必要である。  
・道具を使用した体育活動に積極的に取り組み、休憩時間には運動場に出て遊ぶ児童が多い。その一方で、好きな種目と苦手な種目の差があり、道具の扱い方の徹底と合わせて様々な種目に意欲的に取り組めるように指導していく。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～〇月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	・「子どもが自ら考え、問題解決に向かう授業づくり」をめざす。	●カリキュラムマネジメント表を作成し、各学年対話に重点を置き、計画的に指導を行う。 ●年3回の職員研修を行い、研究テーマについて計画、評価、改善する場を設ける。 ★ペアやグループ学習を通して、他者と学びあう授業に取り組む。	・校内研究授業、公開授業	状態についての協議	年度末 学期末			
		・ふりかえりの質の向上をめざす。	・研究授業討議会、公開授業でふりかえりについて検討する場を設ける。	・校内研究授業、児童のノートの見取り ・ふりかえりの内容の語彙や表現	状態についての協議	年度末			
	学習内容の定着	・一人一台端末での「ドリルパーク」の活用	・毎週火曜日の昼学習15分間において、「ドリルパーク」の基礎問題に取り組む。	・学習アンケートでの肯定的意見が8割	学習アンケート	毎学期			
		・家庭学習習慣の定着をめざす。	・自主学習ノートを活用する。毎月、自主学オリンピックを開催し、児童の意欲喚起を行う。	・学校アンケートでの「子どもは自主学習ノートを使い、自主学習に取り組んでいる」の肯定率の増加	状態についての協議 学校アンケート	年度末			
		・基礎学力を定着させるため教師の指導力向上をはかる。	・初任校の教員を中心に研修を毎月行う。	・スキルアップ研修	状態についての協議	年度末			
豊かな心・健やかな体	心身の健康の促進	・北っ子の約束の徹底を目指す。	●部会で話し合い、児童に朝会で周知し、各学級で目標に向けてできることを考える。 その後、学級で目標が達成できたか振り返る。 ●授業時間の厳守。教員も始業ではじめ、終業で終わることを意識する。	児童アンケートの肯定意見が8割以上 児童アンケートの肯定意見が8割以上	児童会アンケート 児童会アンケート	年度末 年度末			
		・いじめの未然防止	●生活アンケートや、日々の心のアンケートでいじめに関する現状把握を行う。	生活アンケートの回収、確認 教員への確認	生活アンケート 状態についての協議	各学期 年度末			
	・正しいルールを知り、楽しんで運動に取り組むことができる児童の育成。 ・心身の穏やかな成長を促進する。	●児童が協力しながら段階を踏んで取り組み、積極的に活動できる体育学習を目指す。 ●体育種目の正しい取り組み方、道具の正しい使い方の徹底を行う。 ・栄養教諭による食育、栄養指導を行う。 ・健康安全に関する啓発による規律ある生活習慣の確立を目指す。	・体力テスト ・児童の日常活動の様子 ・運動に関するアンケートの実施  ・児童の日常の様子 ・病院搬送件数の確認 ・健康に関するアンケートの実施	・体育テストの記録比較 ・運動に関するアンケート  ・状態についての協議 ・病院搬送件数の前年度比較 健康に関するアンケートの比較	各学期 年度末				
子ども理解	特別支援	・個に応じた支援体制づくりを行う。	・通常の学級、通級指導教室、支援学級から連携した組織的な支援体制の充実をはかる。	・指導体制の連携確認	状態についての協議	年度末			
			・子ども相談委員会(校内委員会)を開催し、通常の学級や通級指導教室、支援学級、家庭での支援方針や支援方法、役割分担について、検討を行う。	・児童に対しての効果的な支援	状態についての協議	年度末			

校長より（年度末）

学校関係者評価者から（年度末）